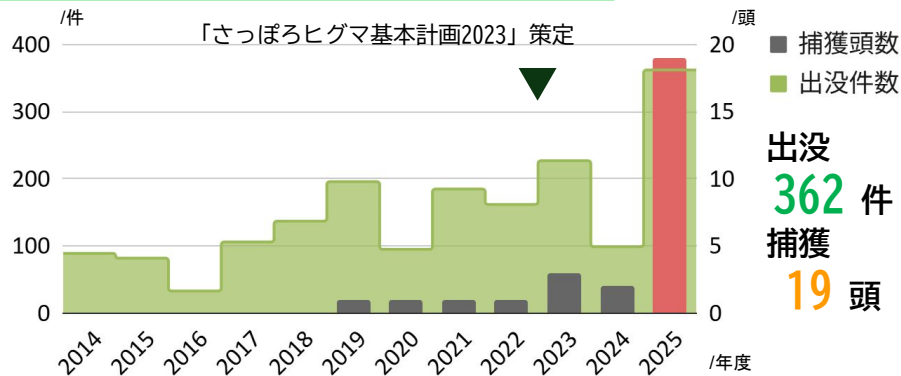


「さっぽろヒグマ基本計画2023」の一部改定について①

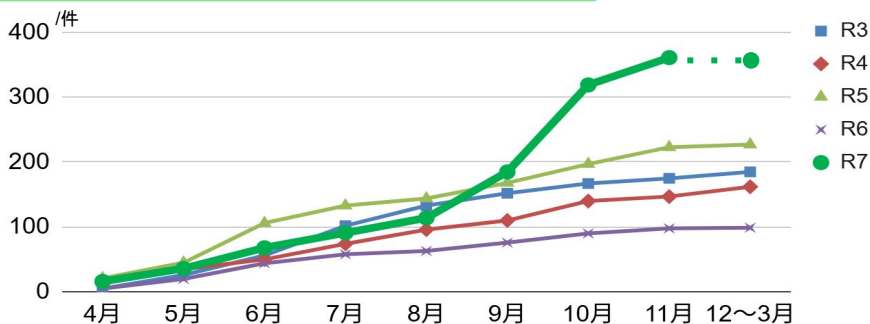
令和8年1月13日
令和7年度 第1回 さっぽろヒグマ基本計画推進協議会

令和7年度の市内ヒグマ出没状況

札幌市のヒグマ出没件数・捕獲頭数の推移



札幌市のヒグマ出没件数の推移(月別、累計)



● 出没件数の急増

R7年度は362件(R7. 12月末)と過去最多を記録、市街地出没も多発
⇒山の実なりの不作為・凶作が原因か

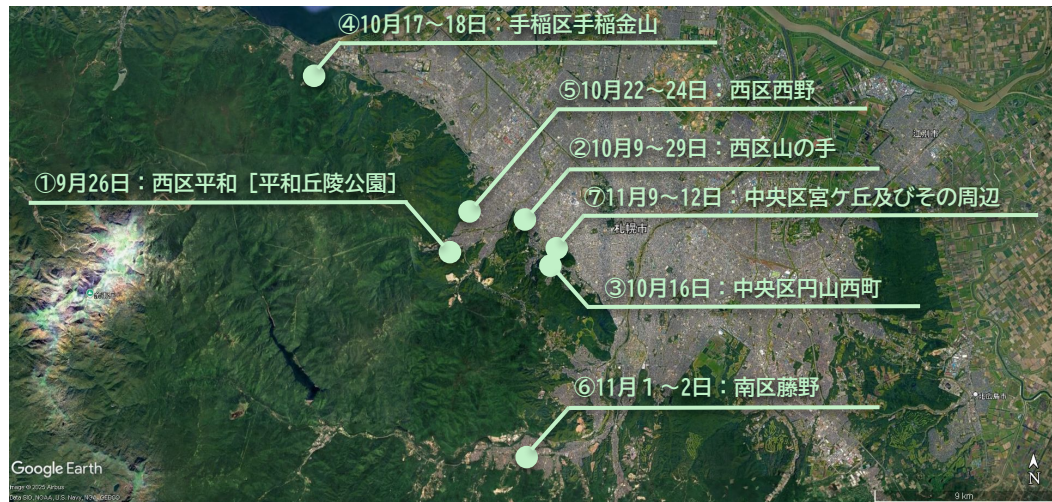
● 捕獲頭数の急増

R7年度、過去最多の捕獲頭数を記録(19頭)。

警察官職務執行法・緊急銃猟にて市街地でも捕獲対応多数

● 人身事故の発生

R7年9月、西区平和で人身事故発生(R3. 6月の東区以来)



● 令和7年度の主な取組

- 電気柵設置 (大倉山ジャンプ競技場、アイヌ文化交流センター)
- 電気柵講習会開催
- ヒグマ対策用ごみ箱設置 (旭山記念公園、R7. 1)
- 草刈り実施地区の拡大 (盤渓地区)
- 緊急銃猟制度への対応
- ヒグマパネル展等開催

国・道の動きとさっぽろヒグマ基本計画2023

国の動き

- 指定管理鳥獣への指定(R6. 4月)
- 鳥獣保護管理法の改定、緊急銃猟制度開始(R7. 9月)
- 「クマ被害対策パッケージ」の提示(R7. 11月)

北海道の動き（北海道ヒグマ管理計画（第2期））

令和4年4月から令和8年3月までの計画だが、令和5年度のあつれき増加等を受け、令和6年12月に一部内容を改定

- ◆ 人とヒグマとの空間的なすみ分けを図るゾーニング管理の推進
- ◆ 捕獲目標の設定による個体数管理の実施
- ◆ 生息数把握などのモニタリングの充実
- ◆ ヒグマに対応できる専門人材の育成・確保



さっぽろヒグマ基本計画2023

- 令和5年3月策定
- 北海道ヒグマ管理計画の地域計画
- ゾーニング、3つの基本目標、ヒグマ対策重点エリア等を設定
- 計画期間：5年（令和9年度末(R10. 3)改定予定）

- 秋の山の実なり状況と出沒との関係性を踏まえると、令和8年以降、令和7年と同様の事態が発生する可能性は否定できない
- 全国的、全道的な出沒増加により、国や道の動きが活発になっており、ゾーニング等の強化・庁内外の部署との更なる連携が必要となる

令和9年度末(R10. 3月)の改定を待たず一部見直しを行う

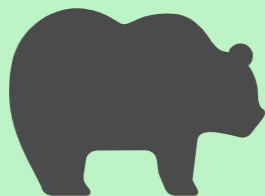
改定の主なポイント

現計画の構成

- I. 計画の策定にあたって
- II. ヒグマに関する現状と課題
- III. 計画の目指す姿（ビジョン）
- IV. **ゾーニング管理**
- V. **基本目標と施策の方向性**
- VI. **計画全体に係る施策**
- VII. **計画の推進にあたって**

検討の進め方

- ゾーニング、ヒグマ対策重点エリアの再定義の必要性
- 生息状況調査結果の反映



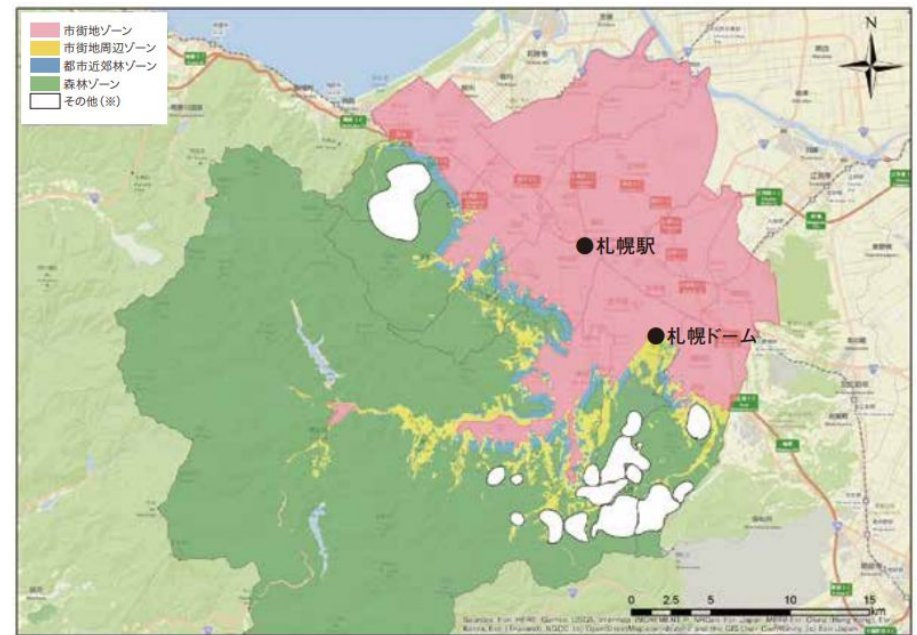
○「施策の方向性」への反映

- ・基本目標①
「人の生活圏へのヒグマ侵入抑制策を推進します」
- ・基本目標②
「市民の安全を第一に迅速かつ適切なヒグマ出沒対応を行います」
例：情報発信強化、緊急銃猟、ICT活用、**個体数管理の考え方** 等
- ・基本目標③
「ヒグマについて考え行動する市民の意識を醸成します」
例：**観光客(インバウンド含む)向けの啓発** 等

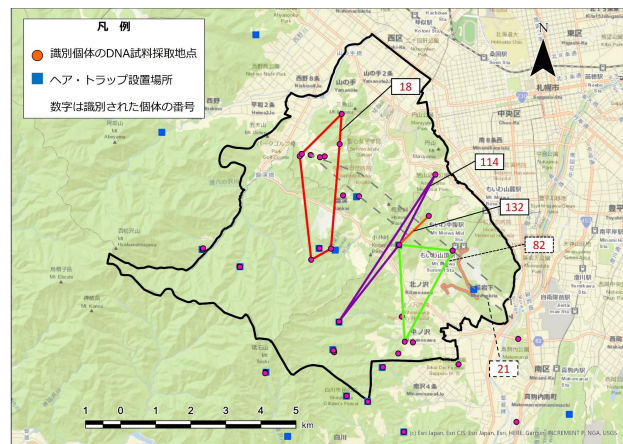
- 部会を立ち上げ、意見聴取など含め具体的な事柄を検討
- その後、本協議会及び札幌市ヒグマ対策委員会で報告・協議
- 令和8年度中の改定を予定

ゾーニング管理・ヒグマ対策重点エリアの再定義

市街地ゾーン	考え方	場所	対策例
	● 多くの人の生活圏であり、人の安全を最優先する地域 ● ヒグマが入ってくることもすみ着くことも認めない	● 市街地や住宅街 ● 森林がない区(北区・東区等)の全域 ● 市街地を流れる河川や緑地部分	● 出没した場合には捕獲を基本とした対応 ● ヒグマを寄せ付けけない対策(ごみの管理) ● ヒグマが入ってこないような対策(草刈りなど)
市街地周辺ゾーン	考え方	場所	対策例
	● 農業など人が活動している又は居住している地域 ● ヒグマが入ってくることはできるだけ抑えたい、すみ着くことは認めない	● 農地、一部の公園、集落(※)など ※人が生活するエリアでは「市街地ゾーン」に準じて対応します。	● ヒグマを寄せ付けけない対策(畑等への電気柵設置、放棄果樹伐採など) ● 市街地ゾーンにヒグマが入ってくるのを防ぐ対策(草刈りなど) ● 有害性が認められるヒグマについては捕獲対応
都市近郊林ゾーン	考え方	場所	対策例
	● 登山など比較的人の利用が多い地域 ● ヒグマが入ってくるが、すみ着くことはできるだけ防ぎたい	● 市街地ゾーンに接している森林	● ヒグマにとって居心地の悪い環境をつくる対策(草刈り、ハンター見回りなど) ● 市街地ゾーンにヒグマが入ってくるのを防ぐ対策(草刈り、電気柵など) ● 有害性が認められるヒグマについては捕獲対応
森林ゾーン	考え方	場所	対策例
	● ヒグマがすみ着き生活している地域 ● ヒグマの適切な個体数を維持していくべき場所	● 都市近郊林ゾーンより奥の森林	● ヒグマを街に寄せ付けけない対策(ごみの管理など) ● 登山者などへの注意喚起



ヒグマ対策重点エリア



防除策・低密度化の強化を中心に、
啓発・モニタリングも並行して実施

- 公共施設での電気柵設置
- 誘引物管理
- 捕獲対応の強化
- メスの定着個体への対応
- 広報活動の実践
- モニタリングの強化

など

大量出没の経験を踏まえ、低密度化などの重点エリアの考えをゾーニング管理へ反映できないか